

来週の「売り物」、記事はこれ



2016年1月15日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

阪神大震災21年 二つの被災地を見つめて

17日(日)



「人は制度で救えない。人は人によってのみ救うことができる」。阪神大震災は17日で発生から21年を迎えます。神戸市のNPO法人「よろず相談室」理事長の牧秀一さん(65)＝写真＝は、被災した高齢者らへの支援活動を続け、間もなく5年を迎える東日本大震災の被災地も定期的に訪問しています。子供の遊ぶ声がしない復興住宅に閉じこもり、扉の向こうで孤独感を募らせる福島の高齢者。その姿に「阪神」の被災者を重ねます。そうした人々に寄り添い、じっと話に耳を傾け、帰り際に必ず「また来るからね」と声を掛ける牧さん。「住民の抱える悩みに期限などない。後になればなるほど悪化していく」と言います。被災者に真に必要なものは何なのか。二つの被災地で活動する牧さんの姿を追いかけて考えました。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

いかがなものか！

「ばらまき」批判を浴びる国の予算案

夕刊2面特集ワイド 18日(月)



国会ではいま、今年度補正予算案が審議され、続いて来年度予算案の審議も行われる予定です。野党側は「ばらまき」批判を強めており、その象徴が、低所得の年金生活者に3万円を支給する臨時給付金です。確かに、夏の参院選が近づく中、「税金を使ったばらまきの選挙対策」ととられても仕方がないでしょう。さらに、予算案全体をみると、歳出総額が過去最大に膨むのですが、国の借金が1000兆円を超えて人口も減り続ける中、本当に大丈夫なのでしょうか。専門家とともに予算のあり方を考えます。

「七人の侍」の総合性

朝刊文化面 16日(土)

長部日出雄さんの「映画と私の昭和」は、あらゆる観点から「本物志向」を貫いた巨匠・黒澤明監督の「七人の侍」を取り上げます。時代考証など徹底したリアリズムと様式美が共存する数々の名場面は、志村喬、三船敏郎ら俳優陣の映画史に残る演技に加え、多くの制作関係者の才能と努力を掛け合わせた「集団創造の総合芸術」のたまものでした。



「女の気持ちをたずねて」

おんなのしんぶん  18日(月)

「くらしナビ」面で連載している「女の気持ち」に投稿した読者を訪ね、その後の様子などを描く人気コーナー。今回は、東京都足立区の吉田紀世美さんを、論説室の野沢和弘論説委員が訪ねました。

長女の中学進学を機に区役所の臨時職員になった吉田さん。「自分を変えたい」と始めた仕事でしたが、ある価値を見いだすことにもなりました。それは「仕事には代わりの人がいるけど、家族には代わりはない」ということでした。そこに至るまでの経緯や心情をつづっています。ぜひ、お読みください。



家庭でも活用「日本食品標準成分表」 くらしナビ面 21日(木)

子供たちの学校給食の栄養指導などで、基礎的なデータとして活用される「日本食品標準成分表」の2015年版(7訂)が文部科学省から公表されました。日本人の食生活の変化に合わせ、収載食品は大幅に増えています。「干しヒジキに含まれる鉄分が製法の変化で減少」など、家庭でも活用できる内容が充実しています。読み方のポイントを紹介します。



飲食店もインバウンドに熱視線 くらしナビ面 22日(金)



急増する訪日外国人(インバウンド)を呼び込もうと、飲食店が動き始めています。外国人が好きそうな内装やメニューに作り替えたり、スタッフに外国人を増やしたりと、外国人をターゲットにした対応は着々と拡大しています。日本経済にとって重要な存在となったインバウンドをいかに取り込むかは、飲食店にとっても大きな課題となっています。

さらば女性優遇……それともこれぞ男女平等なのか

直撃! トップインタビュー

「資生堂ショック」働き方革命の真意はどこに

オピニオン面 [そこが聞きたい] 20日(水)

育児休暇、短時間勤務制度など、子育てをする女性には手厚い制度を導入していたことで知られている資生堂。ところが、ここに来て会社側は方針を転換し、育児中の社員の働き方を見直しています。女性が働きやすい環境では日本企業のトップランナーだけに、他の企業などにも波紋を広げています。見直しの真意はどこにあるのか。魚谷雅彦社長(61) =写真=を直撃しました。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

